

校訓
・進んで実行する人になろう (自主・自立) ・働くよろこびを知る人になろう (勤労・責任) ・伝え合うよろこびを知る人になろう (対話・協働)

生徒・学生の実態
・出身校を含めた出身地域が異なり、北海道の広域性による風土の違いを含めて、生徒・学生がものごとを捉える前提となる生活や学習上の経験が多様であるため、ものごとの見方や捉え方もそれぞれで違いがある。 ・生徒・学生の障がいの状態が多様であり、人工内耳を装用する生徒・学生の割合も増えている。ろう者や難聴者が一つの場で多様な相手と共に、相手の話していることを理解するために共通することばを探りながら学んでいる。 ・認識のあり方や使用する言語等が多様な集団であるため、ことばを使用した学習レベルでの「思考・判断・表現」の深まりについての配慮が必要である。

学校教育目標
(1) 個に応じた教育を進め、各教科等の基礎的・基本的な内容を身に付けるとともに、言語的思考力と自ら学ぶ力を育てる。(知) (2) 集団生活を通して、ものの見方、考え方を広げるとともに、個性を伸ばし、豊かな人間性を育てる。(徳) (3) 自立と社会参加に必要な健康や体力を養う。(体) (4) 全教育活動を通して、自己理解を深め障がいに基づく困難を改善・克服するとともに、的確にコミュニケーションを行う力を育てる。(自立活動) (5) 自立と社会参加を目指して、社会適応力を身に付けるとともに、個性に応じた進路を主体的に選択し、決定する態度を育てる。(キャリア教育) (6) 専攻科では、職業に関するより専門的な知識・技能を習得し、創造性豊かな社会生活ができる力を養う。(専攻科)

令和6年度教育方針
(1) 学習指導要領をふまえた教育課程の改善・充実努力、各教科等の目標を達成する教育を推進する。 (2) 一人一人の教育的ニーズに応じた個別最適な教育を推進する。 (3) 多様なコミュニケーションの方法を活用し、自主的、主体的な学校生活を実現する教育を推進する。 (4) 社会自立に向けた自己実現を果たす教育を推進する。 (5) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育を推進する。

令和5年度の課題
・学ぶ喜びを実感できる授業づくりと確かな学力の育成 ・自己理解を深め、進路や自己実現への意識の向上 ・質の高い教育活動と効率的な働き方の推進

令和6年度重点教育目標
学ぶ喜びを実感できる授業づくりと確かな学力の育成に努める

育成を目指す資質・能力（何ができるようになるか）		
進んで実行する人になろう	働くよろこびを知る人になろう	伝え合うよろこびを知る人になろう
・ 確かな学力を身に付けることができる。	・ 社会的・職業的自立に向けて職業観の育成、勤労意識を向上させることができる。	・ コミュニケーション能力の向上を図ることができる。

学力	情報活用能力	発信力	協働力	判断力	コミュニケーション能力
授業・朝学習・放課後及び長期休業中の補習・寄宿舎での学習等	授業・自立活動・HR活動・総合的な探究の時間・校外学習等	授業・総合的な探究の時間・進路に関わる活動・就業体験等	授業・宿泊研修・見学旅行・学校祭・スポーツ大会・部活動等	宿泊研修・修学旅行・学校祭・就業体験・校外学習・部活動等	授業・HR活動・部活動・休み時間や放課後活動・委員会活動等

資質・能力の育成に向けた具体的な取組（何を学ぶのか・どのように学ぶのか）			
取組事項	①基礎学力の向上	②進路指導の充実	③コミュニケーション能力の向上
内容 ・ 方法	・各学科・教科による日常の学習や朝学習、放課後等の補習などで、基礎学力の向上を図る。 ・各学科・教科の授業だけではなく、あらゆる教育活動の機会に日本語の力の育成を図る。	・自立活動やLHRの時間を中心に、自己選択・自己決定に向けたレディネスを養う。 ・進路学習だけではなく、各学級活動や面談などを通して自己理解を深められるようにする。 ・進路実現に向け、進学や就職関する早期からの情報提供を行う。	・卒業後の社会生活を意識し、自立活動やLHRの時間を中心に、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・各学科・教科等の授業において、書いて伝える力の向上を図る。 ・場に応じた言動についての理解を、日常生活の場を捉えて深められるようにする。
支援方法	・ICTを効果的に活用した分かる授業を推進する。 ・習熟度別の学習をとおして、個に応じた支援を行う。 ・各学科・教科にて適切な観点別評価を行う。	・個々の進路希望に応じたグループ分けや、実態に応じた支援を行う。 ・ICTを効果的に活用し、自ら進路の情報を収集できるような支援を行う。	・社会生活上の出来事を事例として扱うなどをとおして、より具体的に知らせていく。 ・卒業生体験講話や社会見学、就業体験等の事前事後学習を個に応じで行う。
評価指標	学校評価項目2～6平均値：（R5年度 3.1）		学校評価項目14～16平均値：（R5年度 3.3）

指導体制（実施するために何が必要か）	家庭・地域との連携・協働（何が必要か）
・地域資源を活用した体験活動	・学校運営協議会（CS）の活用